

# 調布市『いのちと心の教育』月間の取組

2021年12月

## 調布市『いのちと心の教育』月間の取り組み

調布市の小・中学校は、平成24年12月に市内小学校で発生した事故を風化させない取組として、毎年12月を「いのちと心の教育」月間と位置付け、自他の命(いのち)を大切に、一人ひとりの違いを認め合う道徳授業の充実を図る取組や、児童・生徒が食物アレルギーについて正しく理解を深める取組を行っています。

各小・中学校では、この取組を通して、豊かな心と健やかな体を育む教育活動に取り組んでいます。

また、教職員に対しては、食物アレルギーに対する認識を深め、未然防止の取組や緊急時の適切な対応法を習得するための研修を行っています。

本校でも、『命の大切さ』について、全校朝礼(放送)での校長の講話、NPO 法人がんノートから講師の方をお招きし、「がん」を通して命について考える授業を全学年対象に実施しました。

全校朝礼 校長講話

2021.12.6

「人の心はコロコロ動く」

2021.12.6 1時間目

NPO 法人がんノート代表理事 岸田徹氏

「がん教育いのちの授業」



講師紹介

岸田徹氏

頼れる情報

1987年大阪府出身。立命館大学卒。34歳。NPO 法人がんノート代表理事。

25歳で「胚細胞腫瘍(胎児性がん)」という希少がんを患い、3ヶ月の抗がん剤治療、2度の手術を受ける。約2年後に再発し手術を受け、現在は経過観察中。

闘病中に、同世代の患者の情報を探したが、国内でがん診断される人の内、10代後半~30代は2.5%で患者が少なく情報が不足していることや、がん患者は闘病し、その後も生きていくために家族、仕事、お金などさまざまな課題があることに気付く。そのような自身の経験から、医療情報以外の「患者側の情報」も大切だと考える。

そこで、いま悩んでいる患者に適切な情報を届け、少しでも前向きになるきっかけをつくりたいと思い、がん経験者へのインタビューを行い、それをYouTubeで生配信する番組「がんノート」を2014年から始動させる。インタビュー数は100回を超え、世界最大級のがん患者インタビュー番組となっている。

現在は、国立がん研究センター企画戦略局広報、がん教育ゲスト講師、厚生労働省がん対策推進総合研究事業評価委員、がんと共生のあり方検討委員なども務めている。

15歳以上 40歳未満のがん患者(治療終了後のがん患者、AYA世代にある小児がん経験者も含む)

これらの社会で未来を担うべき人たちが(いわゆる若年がん患者)が、がんになるということが、学業、仕事、結婚、子育てに与える影響は大きく、新がん対策推進計画にもこれらの患者への支援強化がうたわれている。

AYA世代の

がん患者

の定義

## 友人の言葉



手術後、呼吸が苦しくなったときに死を覚悟した。

僕はそのとき思った。「もっと親孝行したかった」「友達に恩返しをしたい」「今まで自分のために何もしてこなかった。自分のやりたいことを大切にしたい」そんな感情が溢れ、自分のやりたいこと=人(がん患者)のために役に立つこと。具体的に必要な情報を届けるため、そのことにより、世の中ががん患者にとって生きやすくなってほしいと願い

『がんノート』を発足させた。



「Think Big (大きく考えろ)」という友人の言葉が支えに…

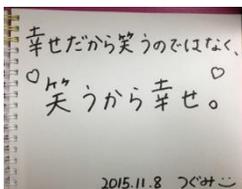
「がん=死」というイメージを持つ人はまだ多いと思いますが、医療の進歩に伴い、治療をしながら、あるいは治療を終えて、生活を続けていく人はたくさんいます。経験者の声は、きっとそういう人たちの役に立つと信じています。

僕自身は、治療中に友人の言葉に支えられました。入院中、お見舞いに来てくれた人たちに一言書いてもらう「お見舞いノート」を作っていたのですが、その中に「Think Big (大きく考えろ)」という言葉がありました。「人生 80 年、90 年という時代、がんになったことは大変なことだけど、今は、長い人生のうちのほんの一点。大きな視点で、長い目で物事を考えよう」というメッセージが込められていて、この言葉に僕はすごく救われました。僕は、それから「今、治療で辛くても長い人生でみたら一時的なものなのだ。今を乗り越えて頑張ればまだまだ先はある」と考えるようになりました。

また、活動をしていくなかで「頼ることも愛情」と言っていた患者の友人にも出会いました。周囲の心配や愛情は、うれしい反面、特に AYA 世代では重荷に感じることも多く、僕も親や友人に甘えづらい時期もありました。でも、「頼ったり、甘えたりすることも愛情」というこの言葉はその通りだと思いますし、AYA 世代のがん患者さんにこそ「みんなを頼っていいんだよ」ということを知ってもらいたいと思っています。

Think Big  
(大きく考えろ)

幸せだから笑うのではなく  
笑うから幸せ♪



大切にしているのは笑顔です。そう思わせてくれたのは骨肉腫を患い 23 歳で亡くなった原澤つぐみさんでした。

つぐみさんは「涙することはあるけど、それと同じくらい笑うこともある。幸せだから笑うのではなく、笑うから幸せ」と語っていました。「笑うから今を幸せだと、瞬間を生きられるんだと思って、自分もそれから笑いを意識するようになりましたし、がんになっても笑って輝ける社会を作っていきたいと思います。



Q: 1年間でがんと診断された人数(2020年)

A: 100万人(富山県、秋田県の人口ほど)

Q: 5年生存率

A: 65% (がんの部位やステージによる)



岸田さんは首だけでなく、全身にがんが転移していると宣告されたにも関わらず 5分5分、50%と伝えられたことや、病院の先生や看護師さんが患者一人一人に丁寧に向き合ってくれたことで前向きになれたと話す。

Q: がんになる原因が遺伝である確率

A: 5% 遺伝は防げないが、それ以外が原因であれば、生活習慣を見直すことで防ぐことができる。がん細胞と戦う免疫(細胞)力をアップさせる。

アフラックのコマーシャルのアヒルは本物かCGか人形か…ここだけの話



がんの基礎知識